

▽ 西原幹子 准教授 Nishihara Mikiko

学 科： 英米言語文化学科

担当科目： English Grammar II、English Writing I、英語 I・II、
英米演劇概論、英米詩概論、専門演習

写真

学歴等のプロフィール

①【主要学歴】②【学位】③【所属学会】④【主要な社会的活動】

① 津田塾大学学芸学部英文学科卒業

東京都立大学大学院人文科学研究科修士課程修了

筑波大学大学院文芸・言語研究科博士課程単位取得退学

②文学修士

③沖縄外国文学会、日本英文学会、日本シェイクスピア協会

教育活動等

主な教育活動	年月日	摘要
1. 教育活動・方法の実践例 1) 英語 I・II	2010年4月～7月、 9月～2月	2010年度前期・後期、各2単位、各30回講義、社会文化学科・人間福祉学科1年次対象、登録者数46名。 週2回のうち1回はCALL教室、あとの1回は普通教室を用いて行った。CALL教室では学生各自のペースで学習できるという利点を生かし、CALL教材作成ツールを用いて学生のレベルに応じた反復練習問題を作成した。
2) English Grammar II	2010年4月～7月	2010年度前期、4単位、英米言語文化学科2年次対象、30回講義、登録者数53名。英文法について英語で説明されている教材を用いることにより、英語の微妙なニュアンスの違いを理解できるように考慮した。
3) English Writing I	2010年9月～2月	2010年度後期、4単位、英米言語文化学科1年次対象、30回講義、登録者数48名。大学生活に関わるトピックを扱っている教材を用い、

<p>4) 英米演劇概論</p> <p>5) 英米詩概論</p> <p>6) 卒業論文 I・II</p> <p>7) 特別聴講学生の受け入れ</p>	<p>2010年4月～7月</p> <p>2010年9月～2月</p> <p>2010年4月～7月、 9月～2月</p>	<p>大学生として普段使えそうな表現を学ばせるように考慮した。月1回小テストを実施し、学習達成度を各自で把握させるようにした。</p> <p>2010年度前期、4単位、英米言語文化学科3・4年次対象、30回講義、登録者数31名。前半は担当教員による講義形式で進め、後半は学生による発表形式を取り入れることにより、学生自身による積極的な作品解釈を促した。</p> <p>2010年度講義、4単位、英米言語文化学科3・4年次対象、30回講義、登録者数29名。学生各人による詩の解釈を語らせ、言葉を通してどれだけイメージを膨らませることができるかを理解させるよう努力した。時代背景については映像なども取り入れながら解説を加えた。</p> <p>2010年度前期・後期、各2単位、英米言語文化学科4年次対象、各15回演習、登録者数24名。学生各人との個別指導を基本にし、学生の自主性を尊重するように心がけた。できるだけ豊富に前年度の卒業生の論文を具体例として示した。</p> <p>English Grammar IIでは社会人の方が1名受講した。英米演劇概論では大学院生が1名受講した。</p>
<p>2. 学生支援活動</p> <p>1) 学習支援 補習授業の実施</p> <p>入学前オリエンテーション</p> <p>履修指導</p> <p>2) キャリア支援・インターンシップ</p>	<p>2010年4月～7月</p> <p>2010年</p> <p>2010年</p> <p>2010年</p>	<p>英語のクラスでは、学期末試験の結果が不十分だった学生を対象に、補講を実施した。また、授業以外の空き時間には必要に応じて随時質問を受け付けた。</p> <p>AO入試・推薦入試合格者を対象に学科で課題発表会を実施し、入学後の学習態度について助言した。</p> <p>4年次対象の卒論ゼミでは、履修登録に間違いがないよう注意喚起を心がけた。また、空き時間を使って、編入生や履修単位数が不足している学生を対象に、時間割の組み方や科目の取り方について指導した。</p> <p>3年生を対象に、合同セミナーを行い、就職活動の心構えについてキャリアセンターの専門スタッフの方に講演をしていただき、学生の意</p>

3. 教育改善活動 授業評価アンケート	2010 年	<p>欲向上を図った。また、インターンシップを終えた学生による報告を聞き、その意義について理解を深めた。</p> <p>毎年少なくとも 2 つの講義について、授業評価アンケートを実施し、翌年度の授業改善に役立っている。</p>
授業改善計画書の提出	2009 年	<p>2009 年度に共通科目の英語が指定科目になったため、「英語 1・II」について計画書の作成を通じて内省を行った。基礎力の強化が最重要課題であることを再認識した。</p>

研究業績等

【 主要論文及び主要著書 】

1. 「『アントニーとクレオパトラ』は悲劇か—アントニーの『認識』の揺れについて」、*Otsuka Review* 第 40 号、2004 年
2. 「トロイ物語と商業主義：『トロイラスとクレシダ』における価値の変容について」、『沖縄国際大学外国語研究』第 9 巻第 1 号、2006 年
3. 「エリザベス朝パストラリズムの諸相—*As You Like It* における『アーデンの森』をめぐって」、『沖縄国際大学外国語研究』第 11 巻第 1 号、2008 年
4. 「Ben Jonson の *Bartholomew Fair* における祝祭表象」、『沖縄国際大学外国語研究』第 14 巻第 1 号、2010 年

研究分野

イギリス文学、エリザベス朝の演劇と文化

【E メール・ホームページ等】

mikiko@okiu.ac.jp

平成 23 年 10 月 12 日現在